

Z会主催「高校英文法指導法研究会」@大阪会場 実施レポート

開催日時	2012年10月6日(土) 14:00-17:30
会場	CIVI 北梅田研修センター5F HALL

▼当日のプログラム

- 14:10～15:50 講演：立命館慶祥中学校・高等学校 教諭 今井 康人 先生
 16:00～16:45 文法指導実践事例紹介①：南山高等学校・中学校 女子部 教諭 吉村 幸一郎 先生
 16:45～17:30 文法指導実践事例紹介②：大阪府立天王寺高等学校 教諭 武井 節子 先生
 ※参加者人数：124名

講演 今井 康人 先生

テーマ：「文法・語法から広がる4技能統合型学習+1」

○これから求められる英語授業

- ・「訳読式(精読)」と「トレーニング(音読・文法・速読・多読)」のバランスが重要であり、どちらかだけでは×。
- ・4技能+「思考力」を育てる。
- ・教養、感動の側面→感動的な題材を選び、与えることも重要。

○4技能+「思考力」を育てる授業実践例

※別資料として『ZESTAR 総合英語』pp.542～559を配布

語彙の内在化

「人のみを主語にする形容詞」を‘内在化’させるためのペアワークを実際に先生同士で行った。ペアで日⇄英を言い合う、スペルを答える など、1つの素材をもとに4～5回タスクを行う。

※ air writing (指を動かして単語を綴る)が重要。

例文の内在化

黒板に書いた例文を何度も唱えながら1語ずつ消していく。

Read Aloud でアウトプットにつなげる工夫

音声を聞いたあと、1分間で Summary を話すトレーニング

1.ダイアログの内容について生徒に質問を3つ作らせる

↓

2.要約させる(いきなりの要約は無理なので段階的に)

はじめは、1つのパラグラフ中の key word にマルをつけ、key phrase を作らせるといった分解練習から行う。

↓

3.意見を述べさせる 必ず Why do you think so? と質問し答えさせる。

→英文の内容について、問いを作らせることや意見を問うことで、考える力を養うことが可能。

○その他

- ・テストに入れてほしい出題形式：error correcting をキーにした grammaring のアプローチ
例：She go school yesterday. を語順を変えずに正しい英文にせよ。
- ・『ZESTAR 総合英語』を読んで気づいたことをまとめる「気づきノート」(家庭学習)を作成させている。
- ・立命館慶祥では8クラス中4クラスが立命館大学に進学。SP コース(東大・京大志望者も在籍するコース)では高2終了時にセンター8割取れるレベルまで引き上げることが目標。京大志望者には25年分の過去問を解かせている。生徒には毎朝、別途作成の英文読解プリントを配布。

文法指導実践事例紹介① 吉村 幸一郎 先生

テーマ：「英語の瞬発力を高め、4技能をバランスよく鍛える！」

『ZESTAR in 47 Lessons』を使用した授業事例」

○指導クラスについて

- ・南山中学校女子部では Progress in English 21 を採用していたが、2011 年度入学生から NEW TREASURE ENGLISH SERIES を採用。
- ・高1 文法作文授業での使用教材：
【『ZESTAR 総合英語』，『ZESTAR 総合英語 English Grammar in 47 lessons』，「ユメブン」，「ユメタン0～1」，『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』】
- ・授業はトレーニング方法を示す場である。
- ・‘瞬発力’を重要視している。
→瞬間英作文（口頭による英作文：日本語を音声で聞いて、すぐに口頭で答える。授業中のペアワーク、定期的にインタビューテストを行う。）
- ・単語を覚えさせるときは今井先生おすすめの air writing を実践。（ユメタン使用）
- ・生徒が発話しやすい雰囲気がある。（生徒同士がフォローし合う雰囲気）

○ZESTAR 活用事例

『ZESTAR 総合英語 English Grammar in 47 Lessons』（以下、47L と記載）

- ・47L を使って発問し、『ZESTAR 総合英語』を参照させている。
- ・47L には例文の日本語訳がないところがよい。文法解説には47L 掲載の例文を使用している。
- ・47L 内、Oral Drill「パターンプラクティス、What would you say?」の部分がよい。
平易な例文にたくさん触れることができる。
自分で規則性を推測できるようになる。intake にとってもよい。
ペアワークに使える
- ・『ZESTAR 総合英語 English Grammar in 27 Lessons』にはディクテーションが入っていてよい。

今井先生おすすめの「気づきノート」を実践

定期考査毎にA～E 段階の評価をつけるため、よく調べてくる。

→ZESTAR は新たな気づきや学びが多い（Forest では易しくて気づきや学びが物足りなかった）

○新学習指導要領の「英語表現 I」の補助教材として、総合英語(文法書)は必要。

文法指導実践事例紹介② 武井 節子 先生

テーマ：「天王寺流 文法指導法～教材の徹底活用で自己表現できる英語力の基礎を築く～」

○学校の状況

- ・「英文法演習」の指導担当教員は3名のみ（若手先生+講師+武井先生）
→経験不足が問題。とにかく教員によって授業内容に差が出ないように留意している。
- ・オリジナルの演習問題集（「黄色い本」）を作成した。
- ・京大志望者には15～25年分の過去問を解かせ、指導している。

○『ZESTAR 総合英語』の活用

- ・Read Aloud が気に入って『ZESTAR 総合英語』を採用。
- ・『ZESTAR 総合英語』の例文を活用した英作文問題演習・定期考査を行っている。
（授業のはじめにその日の担当生徒に板書させ添削を行う。）
- ・週に1回の「weekly test」ではRead Aloud の英文をディクテーションの素材としてリスニング指導を行っている。（誤りの傾向：品詞や時制の概念が薄い、大阪府実施の Advanced English クラスに参加するような生徒でも、TOEIC では得点が取れるが文法に弱い。）